

改造E Vの第1号車
ベース車はダイハツのミラ・ジーノ

巻頭特集

「EV産業の街 秋田」を創る！

東北初！改造電気自動車公道走行！！

あきたE V研究会の取組



研究会

公道を走る改造E V車・運転は佐竹知事

東北初・改造E Vのナンバー取得

昨年12月22日、秋田県庁前で「あきたE V研究会」の改造電気自動車（E V）の発表会が行われた。これは改造E Vを製作する際の「コンバージョンE Vのガイドライン」制定後、東北で初めてナンバーを取得し、公道走行が可能となった第1号車である。

約80人ほどの関係者・報道機関が集まる中、改造E Vを実際に運転して公道を走行したのは佐竹知事。モーターが振動や騒音をほとんど出さないため、初めこそ動き出しに驚いたようだが、県庁の周囲を一周して戻ると、スムーズな加速に感心し「買い物や通勤用途に向くのではないか。県としてもビジネス化に向けて何らかのバックアップを検討したい」と語った。

改造E V開発の意図とあきたE V研究会の立ち上げ

ハイブリッド車のプリウスは、昨年まで国内の新車販売3年連続トップを記録している。また本格的なE Vであるリーフの発売も話題となった。時代はポスト・ガソリン車に向かっている。ガソリンの消費は着実に減少し、ガソリンスタンドが苦境に立たされることは目に見えている。また、ハイブリッド車は重要部品がブラックボックス化されているため、メーカー系列の工場でなければ修理ができず、多くの修理工場も仕事の減少に見舞われている。

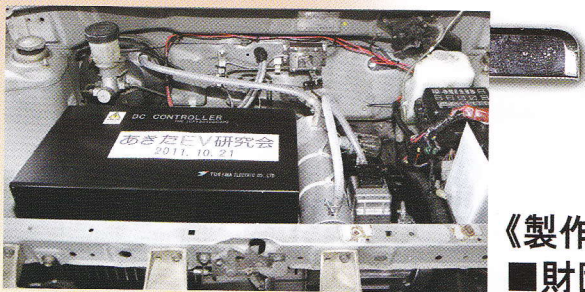
こうした状況から脱却し、秋田に新たなビジネスモデルを生み出そうというのが「改造E V」開発の端緒だった。あきたE V研究会の鎌田会長

は、約2年前からこうした構想を持ち続けていたという。勉強を続ける中で、やはり独自に低公害・低燃費エンジンの研究を重ねていた山本副会長と出会い、自社だけでなく多くの

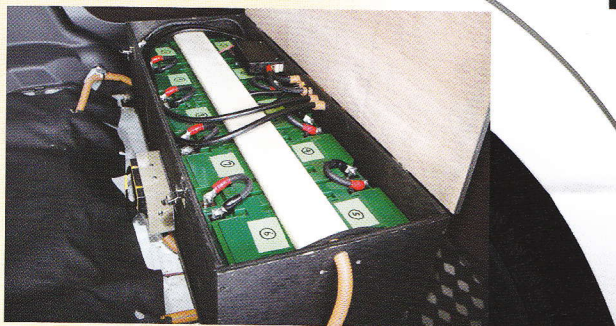


鎌田 学会長：㈱ドラグーン代表取締役/中古車の買取と販売の「ラビット
秋田臨海店」を経営/TEL 018-867-8400/FAX 018-867-8448

2 ● BIC AKITA 2012.02



エンジンルーム内に据えられたDCコントロールBOX等



バッテリーは後部座席側。家庭用100V電源で充電できる(約8時間)。非常時には、逆に蓄電池として電源にできる。

あきたEV研究会

AKITA EV PROJECT

《製作協力》

■財団法人あきた企業活性化センター

■秋田県立大学

■株式会社秋田新電機

■千秋技研株式会社

■株式会社

■山

山本勇誠副会長：㈱山本自動車整備工場代表取締役/県内の自動車整備業界における環境保全活動を推進。環境省の「エコアクション21」認証企業/TEL 018-882-2367/FAX 018-882-3127

企業と協力すべきとの思いを強くした。やがて、あきた企業活性化センターが主催したEV勉強会の参加者など、EVに関心を持つ県内のものづくり企業などがメンバーとして集まった。さらに、秋田県立大学や秋田県産業技術センターなどの参加も得て昨年7月に、あきたEV研究会を発足し、改造EVの試作に取り組むこととなった。

「EV産業の街 秋田」の実現に向けて

実を言うと、研究会のメンバーの多くが初めはEVの部品研究を希望していたという。しかし、「メーカーの下請けではなく、自分たちで新しい仕事を生み出さなければ地域の活性化は生まれない」。鎌田会長の熱意がメンバーの心を動かした。

「改造EVのベースとなる日本車は〈走る・曲がる・止まる〉の基本性能や安全性の心配がない。エンジンと燃料タンクの代わりにモーターと蓄電池を積むだけなので、改造だけなら県内企業でも十分対応できる(公道を走るための保安基準のクリアは簡単ではない)。

地元製造企業がモーター、蓄電池、その他部品を製造する。取付作業を整備工場やガソリンスタンドが担当する。取付キットの販売は街の電器屋さんが請け負ってもいい。雪国秋田という寒冷地に適応した改造EVキットができれば、東北・北海道はもとより、対岸の中国やロシアにだって売り込めるかもしれない。

したがって、まずは改造EV用のキットメーカーの立ち上げ(事業化)が第1目標である。そしてさらに多くの地元企業が結集して、秋田に改造EVの技術を根付かせれば、『EV産業の街 秋田』として、国内外に発信していけるのではないか。そのために研究会では、第1号車によるデータ収集、第2号車の開発と同時に、部品の本県内製化の研究をすすめている。」

秋田県民にとって車は必需品。2台目、3台目を持つ家も少なくない。古くなった車を買換えるのではなく、維持費の安い(ガソリン車の6分の1)EVに改造するという、秋田モデルの環境対策が一般化する日が、やがて現実になるかもしれない。

あきたEV研究会

- ㈱ドラグーン
- ㈱山本自動車整備工場
- 山崎ダイカスト㈱
- ㈱秋田新電元
- 秋田精工㈱
- ㈱アスター
- 本荘由利産業科学技術振興財団
- ㈱栄田電器
- ダイキョー精機㈱

平成23年7月、16社3団体で発足。事務局：あきた企業活性化センター内

- ㈱カミテ
- 大堂電機自動車工業㈱
- 千秋技研㈱
- ㈱谷口
- 三菱マテリアル電子化成㈱
- ㈱リミックス
- 東電化工業㈱
- 戸田鉄工㈱
- 秋田県立大学
- 秋田県産業技術センター



※ロゴマークデザイン協力・ラッピングデザインへの助言：あきた産業デザイン支援センター